

討 論

討論とは、表決の前に賛成か反対かの自己の意見を表明することです。(発言順に掲載)

議案第 89 号 特別職に属する常勤の職員の給与の特例に関する条例の制定について

可決 (賛成 11、反対 3)

市長就任以降、職員のミスが続き市長も認めておられるが、そのたびに市長の給与をカットすることについては納得いかない。また市長だけでなく副市長にも責任があるのではないかと考える。もっと身を切る改革が必要であるとともに、業務体制の是正も含めた思い切った改革により職員を牽引していただきたい。市長として全職員に対する厳しさが足りない限り、ミスはこれからも続くと考えます。

反対



黒田秀一 議員



長田謙一 議員

賛成

組織の頂点に立つ者としては当然のことと考える。しかし、今回行事への出席が遅れた原因は、連絡不足、確認不足の初歩的ミスであり、報告、連絡、相談、「報・連・相」の確立ができていないと考える。できる限り事務処理ミスをなくすよう職員一丸となって検討すべきである。今回の給与カットについては、これも市長としてのけじめと考える。今後はしっかりとガバナンスの構築に向け、確実な仕事ができるよう襟を正していただきたい。

開会時間に遅れたならば、謝れば済む話であり、給与カットという話ではないはず。なぜ、素直にその場で参加者に謝らなかったのか。そういうところに市長の傲慢さを感じずにはいられない。過去3回の事務処理ミスでは、再発防止に取り組むと言いつつも、なお調整不足などと言っていることにあきれる。市長が給与をカットしても、ただの自己満足に終わっているだけであり、責任をとったことにはなっていない。

反対



深田真史 議員

意見書案

意見書案第1号 防災・減災に資するインフラ整備促進のための財源確保等具体的な対策を求める意見書

可決 (全会一致)

近年、豪雨や地震による大規模災害が頻発している。本年だけでも、6月の大阪府北部地震、7月豪雨、8月の台風第20号、9月の台風第21号、さらには北海道胆振東部地震が大きな被害を引き起こした。海水温上昇によるスーパー台風発生の可能性が高まるとともに、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70～80%に引き上げられるなど、大規模災害はいつ起きてもおかしくない状況にあり、防災・減災に対する取り組みを最大限加速させる必要がある。

本年6月に土木学会が発表した「『国難』をもたらす巨大災害対策についての技術検討報告書」では、事前に公共インフラ対策を行うことにより、経済被害が3分の1から6割程度軽減できることが示された。

このことから、災害被害の軽減、災害後の経済活動の迅速な復旧につながるインフラの整備、老朽化対策、適正な維持管理を更に推進していく必要がある。

よって、国におかれては、防災・減災対策をより一層強力に進めるため、下記事項に取り組まれるよう強く要望する。

記

- 1 発生確率が高まる南海トラフ地震や山崎断層帯地震などの大型地震に備えた「事前防災」の観点から、対策に必要となる予算措置を講ずること。
- 2 平成30年7月豪雨、台風第21号など、激甚化・多発化する災害を踏まえ、防災事業を計画的に実施していくため、治水対策、高潮対策、土砂災害対策、道路防災対策等に必要な予算措置を講ずること。
- 3 災害時の機能保全、安全性確保の観点からも、社会基盤施設の老朽化対策や適正な維持管理に必要な予算措置を講ずること。
- 4 「国難」をもたらす巨大災害に備え、発災後の救援支援活動への支障や社会経済活動の機能不全などを回避するために必要となる強靱な交通ネットワークの整備を促進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年12月21日

兵庫県加西市議会